

## 船舶事故調査報告書

平成26年3月27日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成25年8月10（土） 21時10分ごろ
発生場所	東京都江東区所在の高速湾岸荒川橋北方荒川右岸沖 京浜港東京区15号地南信号所から真方位009°4,100m付近 (概位 北緯35°39.0′ 東経139°50.5′)
事故調査の経過	平成25年8月13日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	モーターボート <sup>アルジースリー</sup> ARGUE III、7.3トン 235-17236東京、株式会社アルジー 9.00m (Lr) × 3.09m × 1.76m、FRP ディーゼル機関2基、270.66kW (合計)、昭和60年6月
乗組員等に関する情報	船長 男性 27歳 一級小型船舶操縦士 免許登録日 平成25年7月16日 免許証交付日 平成25年7月16日 (平成30年7月15日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	右舷プロペラ及び船底外板に擦過傷等
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者7人を乗船させ、船首約0.80m、船尾約1.05mの喫水により、花火大会の見物を終え、江東区所在の所属マリーナへ帰ろうとし、江東区の荒川河口付近に架かる高速湾岸荒川橋（以下「荒川橋」という。）を通過後、荒川橋西側の基部の砂町運河入口に向け、左転する予定で荒川河口付近を北進した。 船長は、操舵室兼キャビンの左側にある操舵席に座って手動操舵に当たり、荒川橋の中央の右岸寄りを通過して荒川橋北方沖を約6～7ノットの速力で北北西進中、砂町運河に入るため、左舷側の窓を開け、港内では目視による見張りが重要と思い、目視のみで左舷方を向いて見張りを行っていた。 船長は、夜間で暗く、また、船首側の窓が波を被 <sup>かぶ</sup> って潮で汚れ、護

	<p>岸等が見にくかったので、左舷方を見ながら、少しずつ右岸方向へ航行し、ふと船首方を見たところ、目前に消波工（以下「本件消波工」という。）の五郎太石が見えたので、危険を感じ、右舵を取ったものの、平成25年8月10日21時10分ごろ、船底からガリガリという音がし、本船が本件消波工に乗り揚げた。</p> <p>船長は、エンジンを後進にかけてみたものの、本船が動かなかつたので、エンジンを停止し、同乗者にけがのないこと、及び本船に浸水等の異常のないことの確認を行い、同乗者が所属マリーナへ携帯電話を掛けて救助を依頼した。</p> <p>船長及び同乗者は、21時30分ごろ到着した民間のボートレスキューサービスの救助艇へ移乗し、22時00分ごろ所属マリーナへ帰った。</p> <p>本船は、11日18時30分ごろ所属マリーナの救助艇によって引き下ろされ、所属マリーナへえい航された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 2、視界 良好</p> <p>海象：潮汐 下げ潮の中期、潮高 約170cm</p> <p>月没時刻：20時06分ごろ、月齢 3.6</p>
その他の事項	<p>船長は、小型船舶操縦士免許証（以下「小型免許証」という。）を取得してから初めての操船であり、また、教習時でも夜間での操船の経験がなかった。</p> <p>船長は、小型免許証取得のための教習で本事故発生場所付近を10数回程度航行していたので、本事故発生場所付近の荒川右岸に近い所は消波工があり、浅いことを知っていた。</p> <p>本船は、船体中央にある操舵室兼キャビンにGPSプロッターと一体型の魚群探知機を装備していたものの、レーダーはなく、本事故当時、魚群探知機能のみを使用していた。</p>
分析	<p>乗組員等の関与 あり</p> <p>船体・機関等の関与 なし</p> <p>気象・海象の関与 なし</p> <p>判明した事項の解析</p> <p>本船は、荒川橋の北方沖を北北西進中、船長が、目視のみで見張りを行っていたことから、荒川右岸の消波工に向けて接近していることに気付かず、本件消波工に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長が、GPSプロッターを活用して見張りを行っていれば、砂町運河入口及び消波工に気付いた可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、荒川橋の北方沖を北北西進中、船長が、目視のみで見張りを行っていたため、荒川右岸の消波工に向けて接近していることに気付かず、本件消波工に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考え</p>

	<p>られる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 初心者は、ベテランの指導の下で操船経験を積み、GPSプロッター等の航海計器の操作に早く慣れること。</li><li>・ 事前に海図やGPSプロッター等で予定航行経路の水路調査を十分に行うこと。</li><li>・ 夜間の航海をする場合には、目視による見張りに加え、レーダー及びGPSプロッターを活用して船位及び針路の確認を行って航行すること。</li><li>・ 操舵室前の窓ガラスが潮等で汚れている場合は、停船して拭き取るなどし、視界を良好にすること。</li></ul>
--	---